令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容

◆　女性の社会進出や核家族が多くなり、近くに祖父母を含めた親族がいない世帯が増え、子どもにとって安全な遊びや生活の場としての学童クラブの役割が大きくなってきています。そのため、支援員の専門性を高め、全国共通の考えを持つための研修が必要となっています。そのような研修を受け、子どもが来所したときには安心できるように迎え入れ、一人ひとりに対応できるように注意を払いたいと思いました。

◆　少子化と言われる中、女性の就業率が増え、子育てと仕事の両立のため学童保育のニーズが高まっていると言われている。大都市だけでなく秋田県でも核家族化に伴い児童クラブ数、利用児童数が増えている。児童の主体的な遊びや生活が可能となるよう児童の健全育成を図るなど、児童と保護者が安心して利用できるためには支援員の関わりや役割がとても大きいと思った。

◆　児童を見守る視点を家庭と学童クラブとで補い合い、保護者が安心して子育てと就労を両立できるよう支える。児童の発達・成長と自立を促し、健全な育成を図る。また、設備運営基準では利用者が明るく衛生的な環境において、素養があり適切な訓練を受けた職員の支援により、心身ともに健やかに育成されることを保障するもので、最低基準としての生活を持つものである。この度の講義で学童クラブに勤めるための能力、知識を身に付ける必要性を痛感しました。

◆　両親が共働きで核家族も多くなってきている時代に、とても必要とされているのが児童クラブだと思います。まして世の中は危険と隣り合わせの場面も多くなり、一人で家にいたとしてもゲーム機に頼りっぱなしだったり…。もっと充実した態勢と支援員が増えたらいいなと思っていました。時代とともに進化しなければならない事業だと思うので、法律や条令など見直してみようというきっかけになった講義でした。

◆　放課後児童クラブは、児童福祉法や市町村の条例等の運営基準に基づいて設置されている。また、一定水準の設備や運営の安定性確保の中で一人ひとりの支援員に責任が生じるということも再確認でき、本認定資格研修の重要性をひしひしと感じた。児童数減少と相反して利用者が増加している背景には、女性の就業率と核家族の増加が起因していることに納得した。女性が活躍し、児童の心身を健やかに育成するため、今後も研修を深めたい。